

#### ④ 学齢期の情報

以下の情報は、担当の相談支援専門員 定禅寺さんが、知朗さんの過去のことを知る関係者を探し、情報を得たものである。

<p>小学6年生の時に受けた児童相談所における判定状況</p>	<p>I Q 68という記録はあるが、詳しいデータは不明。</p>
<p>教育関係者からの情報</p>	<p>中学の太鼓部の顧問だった先生から、「中学1年の頃は、よくしゃべり、張り切って何でもやりたがる子だった。幼い頃は、よく動き回る子だったと母親から聞いたことがある。」との話があった。</p>
<p>中学入学後に母親と相談に行ったことがある専門機関からの情報</p> <p>※その後、年に一回のペースで数回その機関に通っている。離婚後もしばらく母親が連れて行っていた。</p>	<p>「母親がとても心配そうに知朗さんを連れてきて、『知朗はやさしい子です。でも、乱暴なところがあるからと学校から追い出されてしまったのです。何ができていないかを知りたいのです。』と訴えたので、印象に残っています」とのこと。（以下は、5年前の高等部2年生の時の状態について、聴取した内容をまとめたもの。）</p> <p><b>【日付、時刻】</b> よく理解できている。</p> <p><b>【数、数量】</b> 計算には時間はかかるが、二桁までの加減は大体良好。三桁になると難しい。買い物の時には、大きな金額の札で支払いおつりをもらっていた。</p> <p><b>【書字】</b> 筆圧が弱く、読み取れない字も多く、線が一本抜けていたり、多かたりする。筆順は自分なりの書き方。</p> <p><b>【読み】</b> 一、二行の文章はわりとすんなり読むことができていた。 難しい漢字でも知っているものがあった。読み違い（勝手読み）は目立っていた。</p> <p><b>【聞き取り】</b> 一対一での指示は通るが、集団における指示はほとんど通らない。特に周囲で誰かが話しているとその話にも気をとられてしまう。三人以上で話し合うことはかなりストレスになる。早合点してしまうことも目立つ。</p> <p><b>【話すこと】</b> 慣れた相手だと、早口になる。筋道の通った話をするのが難しく、何が言いたいのか周りに伝わりにくいことがある。</p> <p><b>【比較・推測すること】</b> 予想することは苦手。どうすればいいのかを考えて、自分の考えを述べることも難しい。自分の意思を言葉で表すことはできるが、誰かに言われたことを真似ているだけのことも多い。</p>

<p>特別支援学校高等部の 元担任からの情報</p>	<p><b>【指導上の留意点について】</b></p> <p>①同じような内容のことについても、理解できている時とそうでない時の差が大きい。特に集団の場面では、話したことが理解できていないことが多かった。</p> <p>②自分でできない時になかなかヘルプコールが出せない。</p> <p>③教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。</p> <p>④人に認められたい気持ちはとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。</p> <p>⑤なかなか伝えたことが身につかない時に、繰り返し丁寧に声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。</p> <p><b>【支援目標を達成していく上で効果が認められたこと】</b></p> <p>①作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5～6工程の内容でも対応できることは多かった。</p> <p>②やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように、写真を添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。</p>
--------------------------------	--